

2017年11月1日

「不幸な子どもの生まれない運動」への称賛を公言してはばからない兵庫県立こども病院と、それを容認する兵庫県に抗議し、記載の削除・訂正を求めます。

兵庫県立こども病院院長 中尾秀人殿

兵庫県立こども病院名誉院長 小川恭一殿

『兵庫県立こども病院移転記念誌』編集委員会各位殿

兵庫県知事 井戸敏三殿

「わたしたちの内なる優生思想を考える会」

連絡先：〒557-0041 大阪市西成区岸里3丁目7-1-904 古井方

TEL：06-6652-6398

E-Mail：fwka2024@nifty.com

この度、兵庫県立こども病院が、ポートアイランドへの移転を機に出版した『兵庫県立こども病院移転記念誌』（2016年3月発行）の中で、兵庫県が過去に実施した「不幸な子どもの生まれない運動」を「本邦では初めてのユニークな県民運動」と称賛し、開院に際して「このこども病院は、未来を築いていく子供達への贈り物として建設したもので、不幸な子供の生まれない県民運動の一翼を担うもの」であり「兵庫県の大きな誇り」と金井知事（当時）が語ったことを無批判に取り上げている（小川恭一名誉院長による「兵庫県立こども病院誕生当時のこと」『記念誌』p.17）ことを知り、驚くとともに強い怒りを禁じ得ません。当時、「不幸な子どもの生まれない運動」に対して、「青い芝の会」はじめ障害者運動から強い批判が投げかけられ、「不幸な子どもの生まれない運動」自体を見直さざるを得なかった歴史的経緯を一切忘れてしまわれたのでしょうか？

思い返せば、兵庫県衛生部が中心になって「不幸な子どもの生まれない運動」をスタートさせたのは1966年のことです。1970年には「不幸な子どもの生まれない対策室」（以下、「対策室」）を設置し、障害児は「不幸な状態を背負った児」（兵庫県『不幸な子どもの生まれない施策—5か年のあゆみ』より）であるとして、その「出生予防」のために様々な施策が実施されました。1967年からは、優生保護法12条による精神障害者や知的障害者への強制不妊手術の費用を県で負担して普及をはかりました。1972年には、「先天性異常児出産防止事業」として、胎児の障害チェックのための羊水検査を県費で実施することを決めました。「対策室」設置とほぼ同時期に開院した「兵庫県立こども病院」は、院内に「不幸な子どもの生まれないための指導教室」を開設し、前述の羊水検査を実際に行うなど、まさに、「不幸な子どもの生まれない運動」の中枢を担ったのです。

これに対して、「青い芝の会」の障害者達は激しい抗議行動を展開しました。そして、(1)「不幸な子どもの生まれない運動」は、障害者の生を胎児の段階から不幸であると決めつけたものであり、今、生きている障害者達をも「あってはならない存在」とみなすもので

ある、(2)「障害者がかわいそう、気の毒」「五体満足で生まれてほしい」などといった考えは健常者の発想であり、障害者差別の具体的な表れである、(3) 行政による羊水チェックの推進は、障害者の生存権を否定するものであると主張して、「対策室」廃止、羊水チェックの中止、障害者差別に充ちた県行政の姿勢を改めるよう求めたのです。この反対運動によって、1974年4月に「対策室」は廃止され、「不幸な子どもの生まれない運動」も「良い子を産み健やかに育てる運動」に名称変更しました。県費による羊水検査も、同年10月に中止されました。

以上のような歴史的事実を隠蔽したばかりか、『記念誌』の記述を見る限り、「不幸な子どもの生まれない運動」が著しい障害者差別であったとの反省もなされていないと感じざるを得ません。

私たち障害者は、1974年に障害者を不幸と決めつけたことに対して抗議をしましたが、40年以上たった今も、どんな人も生きていけるような社会に変わっていないということがはっきりしています。それは、いまだに障害者の収容施設があり、インクルーシブ教育でなく支援学校があるなど、障害者を地域から隔離するシステムがしっかりとあるということです。

例えば、日本では、今も車いすでは生活できないようなスタイルの建物があふれています。米国等では、アパートを建てる時は、戸数の何割かは車いす用の部屋を作らなければなりません。アトランタでは家を建てる時は、玄関は段差なし、幅は車いすが楽に通れる82cm以上、1階のバスルーム（トイレ）は車いすの入るスペースを確保、この3つの条件を満たしていなかったら建築許可が出ません。この法律は2007年の段階で、世界中で58の国や自治体で施行させています。アトランタでは既存の家でも、希望すれば改修工事に補助金が出るそうです。ところが、日本ではユニバーサルデザインどころかバリアフリーさえ浸透していないために、阪神淡路大震災の時に家が壊れて新しく建て替えた人たちが、前と同じようなバリアだらけの家を建てたものの、その後に脳梗塞になられた方が、せっかく建てた自宅に戻れず、ケアマンションや施設に入らざるをえない現実をたくさん見てきました。未だに「施設」が増えるのは、一生暮らし続けられる安全な建物を「特別視」して（そのほうが儲かることもあり）、一般に普及させようとしなからずです。

身体の機能や見た目ですべて「不幸な人」と決めつけ仲間はずれにするのではなく、その人がそのまま生きていく方向を示唆できるような施策を作り、みんなが一生安心して住み続けられるような地域社会を構築しなければならないのではないのでしょうか。

私たち障害者は、生まれた時から不幸だと決めつけられることも多々あります。でも、人はだれでも皆、年をとれば障害者になるのではないのでしょうか。老いるということは、機能の低下や認知症の症状が表れたりして、今、「あつてはならない」と思われているものになっていきます。「あつてはならない」と思うその価値観は、自分に戻ってくると思います。私たちが、今、しなければならないのは、「障害」や病気のある人々を切り捨てるのではなくて、どんな人でも一緒に生きていける価値観を共有し、具体的な仕組みを一刻も早く構築することではないのでしょうか。それなのに、兵庫県の「不幸な子どもの生まれない対策室」は、40年たっても、ひとりひとりの心の中に立派に存在しています。それが

「年をとりたくない」「あんな姿になるぐらいなら死にたい」という、人生の最期に情けない気持ちを作ることになると考えます。

この『記念誌』の中では、「不幸な子どもの生まれない運動」を「ユニーク」と表現していますが、「ユニーク」では終わらない問題です。今からでも、私たち障害者が抗議したことを、しっかりと心に刻みつけ、歴史は歴史としてきちんと残していただきたいと思えます。「日本軍『慰安婦』はいなかった」「戦争での虐殺もなかった」「福島原発事故の放射能被害はない」など、都合の悪いことはなかったことにする傾向がありますが、反省しないままでは、次の時代は、又、間違いを起こすのではないのでしょうか。歴史の中に、本当のことを取り入れて、これから未来の子ども達に、間違いは間違いとして認め、謝るべきことは謝るということを見せなければならぬと思えます。

そのうえ、福島原発事故では、いまだに放射能は漏れていて、健康被害もこれからますますでてくることでしょう。それを母体血検査（母体血胎児染色体検査）のような出生前検査で、生まれる前から選別し、世に出さないようにする価値観がここに至っても表れるのではないかと危惧されます。現在、インターネット上では、「低価格で簡単に受けられる」といった母体血検査の売り込みも、既に始まっています。時代が変わっても、兵庫県が先頭をきって「不幸な子どもの生まれない対策室」を作った発想と何ら変わっていません。

人を選別することは差別をつくることです。私たちの時代には、差別をなくさなければなりません。この「不幸な子どもの生まれない運動」を「ユニークな県民運動」と表現することこそが、反省もなく、未来もないことにつながります。

2012年には「障害者虐待防止法」が施行され、2014年には「障害者権利条約」を批准、2016年には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が施行されました。「障害者差別解消法」では、障害を理由に差別的な取り扱いをすることを禁止し、障害に対する合理的配慮の提供を求めています。障害者差別解消に向けて先頭に立って施策を進めるべき公的機関において、今回の記述にみられるように、差別を助長させることなどあってはならないはずです。

以下の項目について、11月末日までに、文書にて回答くださいますようお願いいたします。

- (1) 兵庫県が過去に行った「不幸な子どもの生まれない運動」について、現在、どのように考えておられますか？
- (2) 「不幸な子どもの生まれない運動」を「ユニークな県民運動」と表現した意図は何ですか？ 上述の抗議文の中でのべたような「不幸な子どもの生まれない運動」への批判やそれをめぐる経緯を知らなかったのですか。あるいは、知っていたのに無視したのですか？
- (3) 『記念誌』の中の、「不幸な子どもの生まれない運動」を称賛する記述を削除し、訂正して下さい。

〈賛同団体〉2017.11.20.現在 59 団体

あいえるの会／愛知「障害児・者」の高校進学を実現する会／ALDの未来を考える会／
安心できる介護を！懇談会／医療労働運動研究会／NPO いっぽ／
怒っているぞ！障害者きりすて！全国ネットワーク／
怒っているぞ！障害者切りすて！ネットワーク関西／神奈川・「障害児」の高校入学を実現する会／
関西合同労組兵庫支部／関西合同労働組合／共生共育をめざす滋賀連絡会／グループ生殖医療と差別／
現代を問う会／「骨格提言」の完全実施を求める大フォーラム実行委員会／NPO サニーサイド／
「相模原障害者殺傷事件を考える尼崎集会」実行委員会／CIL くにたち援助為センター／
CIL だんない／STOP 原子力★関電包囲行動有志／就学時健診を考える府中市民の会／
障害者差別解消ネットワーク／障害者自立センターつかいぼう／
障害者生活支援センター・てごーす／障害年金の国籍条項を撤廃させる会／
障害者の生活保障を要求する連絡会議／
障害者の生活保障を求め行動する会／障害者問題を考える兵庫県連絡会議／
障害児を普通学級へ美作地区連絡会／障害児を普通学校へ・全国連絡会／新空港反対東灘区住民の会／
全国一般労働組合東京南部ケアワーカー連絡会／全国一般労働組合東京南部フットワーク新宿分会／
全国「精神病」者集団／臓器移植法を問い直す市民ネットワーク／DNA 問題研究会／
DPI 日本会議／読書会通信／どの子どもにも普通学級へ！ともにあゆむ会／
名古屋「障害児・者」生活と教育を考える会／
難病をもつ人の地域自立生活を確立する会／日本消費者連盟／
日本脳性マヒ者協会全国青い芝の会／日本脳性マヒ者協会茨城青い芝の会／
日本脳性マヒ者協会兵庫青い芝の会／日本脳性マヒ者協会広島青い芝の会／
脳性まひ者の生活と健康を考える会／バクバクの会～人工呼吸器とともに生きる～／
HANDS 世田谷／兵庫県精神障害者連絡会／福祉労働編集委員会／
辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動有志／ペンギンの会／
宮城・共育を考える会／やちよ保育・教育を考える会／
やめて！！家族同意だけの『脳死』臓器摘出！市民の会／夜回りの会・みみず／
リメンバー 7.26 神戸アクション／分けない教育・保育をすすめる大阪市民の会／

〈賛同人〉2017.11.20 現在 154 人

青木学、青木道夫、青野比奈子、青野洗夢、赤塚喬、赤塚弘美、石地かおる、石田勝啓、伊地知圭子、
石橋宏昭、石原英次、伊藤哲寛、井上淳、井上浩、岩崎晶子、岩田智子、上野恭経、江川進市、遠藤磨
祐、仰木明、大塚孝司、大西洋子、大野ひろ子、大橋早香、大畑喜一郎、大道広子、大森正子、岡崎岳、
岡田有生、岡部澄人、岡部智加、岡本隆吉、小里和也、折口恵子、折口晴夫、春日直樹、加藤紀代美、
加藤美代子、加藤陽子、冠木克彦、蒲牟田宏、川嶋登夫、川見公子、川本道代、木村政紘、熊谷陽子、
黒石昌朗、桑山雄次、郡司實、合田享史、古賀稔章、小金菜穂子、後藤茂、後藤由美子、小林明、小東
ゆかり、小森淳子、斉藤日出治、斎藤雅子、桜井まり子、佐々木伸良、鮫島輝夫、椎木章、繁周作、繁
朋子、篠原睦治、白石清春、杉尾尚子、鈴木絹江、鈴木敬治、園良太、高崎明、高橋久美子、高橋まり
子、高見元博、高山豊希、瀧柳洋子、詫間隆、竹内雅代、立岩真也、田中優子、田中（長岡）恵美子、
田中徹、玉木佐江美、辻真弓、土屋葉、出口孝次、でんだひろみ、利光恵子、泊潤安、富田京子、中沢
浩二、仲宗根朝寿、中村和利、名谷和子、西川雄二、西田一紀、西田美恵子、西浜檜和、丹羽雅代、沼
田充廣、野崎泰伸、橋本広芳、馬場山往、早川陽二、原田美恵子、平石澄子、平岡建樹、平岡延子、広

瀬徹、福永年久、藤永忠、藤林詠子、藤森洋子、藤原久美子、藤原民織、古井透、古井正代、古庄和秀、古谷史子、本田広美、本田真聖、松尾和子、松尾哲郎、松波めぐみ、松原康彦、松本孝信、三浦俊一、見形信子、三矢悦子、三矢博司、美波隆司、南守、美濃部裕道、宮野吉史、宮本博志、宗博文、村上博、村上節郎、村上薫、村上啓子、元百合子、盛田容子、矢内純子、山口光枝、山崎意成、山本真理、横田真人、吉田明彦、吉田朱美、吉武仁貞、頼尊恒信、李清美、